

高齢者アセスメントツール『8領域21ニーズ』の未来

－研修講師の立場から－

株式会社生・活・計・画 ほほえみの木々 居宅介護支援事業所

新居 順子

(科学的根拠 利用者主体 百アセス)

1. 目的

世田谷区ケアマネジャー向け研修で使用しているアセスメントツール『8領域21ニーズ』について、現代風のエッセンスを盛り込み、「未来のアセスメント像」を考察します。

私自身、10年前に8領域21ニーズを初めて学び、その翌年から世田谷区の研修講師として新任ケアマネ育成に携わって参りました。足掛け10年のこの機に、改めてこのツールと向き合い、勉強していこうと考えました。

2. 実践内容

2021年度介護保険報酬改定において「科学的介護の推進・ICT活用等による事務の効率化による通減制の緩和」と言う「未来の介護」の礎が見出されました。このような新たな風潮を『8領域21ニーズ』に組み込むことを考え、「科学的根拠⇒数値化、AI導入⇒セルフアセスメント」と置き換え、8領域21ニーズの新バージョン『百アセス』を考えました。

従来の21個の質問を細分化し、簡単に答えられる質問『100個』を設定、出来るだけ数字で表すことが出来るものは数値化を行い、利用者の気持ち的な数値化できないものは「6段階のニコちゃんマーク」の感覚尺度を活用しました。

実際に出来上がった「百アセス」を実母に協力してもらいアセスメントを行ってみました。



3. 結果

百アセスを通じ利用者自身で「生活の振り返り」を行なえたことで、自身が取り組む「生活改善策」と介護事業者が担うサービスを明確にすみ分けることが出来ました。実際に生活を数値化することで「曖昧さ」がなくなり、利用者との間に共通尺度が生まれ、関係性の向上にも繋がりました。また、通常のアセスメントでは利用者の「できないこと」を見つけがちになっていましたが、利用者主体で自らが生活改善の着眼に気づき「幸せ探しの視点」を持つきっかけに繋がることが出来ました。

現状の「困っていることを解決しなければならない視点」と「楽しい目標を持ったポジティブな意欲ある生活、自立支援の視点」の両方を持たなければならないことを改めて感じました。

4. 考察と今後の課題

人生100年時代、団塊ジュニアの後期高齢移行時代、介護の在り方も変革して行かないといけません。AIの導入や科学的の導入を踏まえ、介護業界の変革も時代の流れに沿っているものと思われます。しかし、「介護は人の心を第一義に考えること」はどんな時代になろうとも普遍的なものであると信じております。

今回取り上げた「百アセス」で実際に利用者と話しをすることで「その人らしさ」をより深く知る機会となり、また利用者自身も「自分を振り返る」ことで『幸せ探しの視点』が芽生えることが出来ました。

今回の経験は私に「人の心に寄り添う」ことの重要性、「人の自助力、生きる力」の大きなパワーを改めて感じさせてくれました。

百アセスは「8領域21ニーズ」の未来の派生の一例に過ぎません。その時代その時代に合わせツールの中身も進化することが求められています。

今後も「8領域21ニーズ」を扱う世田谷区のケアマネジャーたちが、その専門性を発揮し、世田谷区民の方々のために生き生きと活躍することを期待したいと思います。



<助言者コメント>

上之園 佳子（日本大学文理学部社会福祉学科特任教授）

2021年度介護保険報酬改定での「科学的介護の推進等」の方向性を“アセスメントツール『8領域21ニーズ』（世田谷区ケアマネジャー研修で活用）”に反映できるように、数値化・感覚尺度を活用するとともに利用者自身で記載する「百アセス」を考案し、試行的実施の結果から評価と効果をまとめた実践研究の報告です。

ケアマネジャー向け研修講師としての実践を踏まえ、利用者本人の思いを十分に把握できるアセスメントの必要性、科学的介護に対応した客観性の両方を目指して「百アセス」作成したことです。その「百アセス」は利用者がみずから生活改善への気づきとなっていると考察しています。

これらの結果を踏まえ1つ目『8領域21ニーズ』に現代版解釈や数値化で科学的根拠、見える化した試みは今後の多職種連携での情報共有のツールと活用できると思います。ケアマネジメントの目的でもありチームアプローチ（チームケア）の基盤となる科学的介護に取り組んだ試みで、今後の活用に期待しています。

さらに、この実践報告での2つ目の利用者のセルフ記入で本人主体のニーズを把握できる工夫ができるようにしていることです。これもケアマネジメントの利用者主体の生活の継続を支援することが明確にできるツールとして意義ある実践報告となっていると思います。